

オープンセミナー・レポート

文脈化による教会の形成と成長

講師

宣教戦略シンクタンク
「RACネットワーク」代表

福田充男



評議委員会と理事会に合わせてオープンセミナーを開催いたしました。今後このような形で会議と共にオープンセミナーを開き、日本民族総福音化のために様々な視点から学びを深めていきます。第一回目は、日本における文脈化のパイオニアである福田充男先生をお迎えして「文脈化による教会の形成と成長」と題して学びを頂きました。非常に内容豊かな学びでありましたので、全てをレポートできませんが、「文脈化」に絞って報告させていただきます。

一、日本のキリスト教会の危機的な状況と世界宣教の進展

日本には約七〇〇〇から八〇〇〇の教会があるが、一年間の受洗者数は約七〇〇〇人と言われている。統計上は、平均すると一教会に一人の受洗者がいたことになるが、実情はさらに深刻である。アンケートに応じた

九割の教会は受洗者がゼロだとのこと。

このような日本のキリスト教会の危機的な状況とは対照的に、二〇〇四年にバングラディシュだけで、一年間に十二万人ものイスラム教徒が洗礼を受けた。世界のその他の地域でも神の偉大な働きの結果がなされている。日本ではなぜ、同じことが起

らないのだろうか。

二、文脈化とは：

世論調査によれば、キリスト教に関心や期待を持っている層は人口の十パーセントに及び、首都圏の女子学生の四パーセントはキリスト教に入信したいと考えている。かなりの割合の日本人がキリスト教に好意的であり、心を開いていることが分かる。しかし「キリスト教は良いけど、教会に行くのは嫌」という結果も報告されている。教会が変わることが日本を開く鍵となる。

日本のみならず、アジア諸国は総じて、キリスト教を西洋文化と切り離すことのできないものとして受け入れてきた。いわば、西洋文化に根差したキリスト教を、西洋文化という植木鉢に入れて、日本文化の土壌の上に置いたのである。そのため、植木鉢は直接的に日本文化と触れ合うことはなかった。

このように、日本の伝統文化を異教的なものとして無批判的に排除した結果、「クリスチャンになることは日本人であること」を捨ててしまうことだ」という

ような誤解が起こった。多くの日本人はキリスト教を自分にはかわりのない外国の宗教だと思なしたのである。

文脈化とは、西洋文化と一体となったキリスト教を輸入（transport）するのではなく、キリスト教の本質を日本文化という土壌に移植（transplant）するというアプローチである。そうすることにより、もともと日本人々になじみ深い教会形成や宣教アプローチへの道が開かれるはずである。

三、イエス様のアプローチ

イエス様は人となってこの世に来てくださった。イエス様が来られた世とは、真空ではなかった。ユダヤ人の文化の中で、ユダヤ人として生まれ、その文化の中で育たれ、その文化を用いて、その文化に生きる人々に福音を語られたのである。

文化は、神と対立するものではない。神とのコミュニケーションの媒体である。神は、文化を超越したお方だが、文化という媒体を通して、福音をその文化に生きる人々に届けられるお方である。だから、異教的なコ

ミットメントは捨てるべきだが、日本文化の形態は神の栄光のために用いるべきである。

イエス様の受肉の原則が、私たちの模範である。彼が神としてのあり方を捨てて僕のかたちを取り、私たちの間に生きられたように、私たちもまた、自分の心地よさを捨てて、福音を受け取る人たちの有り様に自分を調整すべきなのである。

四、日本文化とキリスト教

文化は人間の罪のゆえに歪められ、神を侮り、神のかたちに造られた人を抑圧するために用いられるようになった。それゆえ、それぞれの文化が元来持っている持ち味や賜物を見つけて出し、神の計画と栄光のために用いるようになるために、文化を敵の手から奪い返す必要がある。

たとえば、日本には、武士道という理想イメージがある。奉公、克己、慈愛等のキーワードで表現される。これらの価値観も、神の栄光のために用いられる。キリストという究極の主人に「奉公」し、聖霊により「克己」して罪と戦い、隣人に「慈愛」を示すという日本人キリス

ト者のあり方が、武士道イメージを媒介として完成されていく道があるのだ。

神は多様性を愛する方である。そのため、日本的な信仰のあり方や讚美をも受け取りたいと願っておられる。また、日本文化をコミュニケーションの媒体として用いることによって、御自身の愛や福音を伝えたいと願っておられる。さらに、日本人的な福音の生き方、教会理解の仕方を通して、世界の教会を祝福しようと決断しておられるのである。

(文責：事務局 新谷和茂)



総裁・副総裁・理事・評議委員の紹介

今年4月に行われた評議委員選挙によって評議委員が選出されました。6月13日と14日には第1回評議委員会と第1回理事会が開かれ、総裁、副総裁、事務局長、理事が選任されましたのでご報告いたします。

総裁

奥山 実

宣教師訓練センター所長

長谷川 乃武男

むさしの神の愛教会鳩山タウンチャペル牧師

藤井 克行

マナチャペル牧師

副総裁・事務局長

手束 正昭

高砂教会牧師

評議委員

青木 靖彦

グッド・サマリタン・チャーチ牧師

釘宮 義人

キリストの福音大分教会牧師

小森 由美子

高砂教会信徒

榮 義之

エリムキリスト教会牧師

新谷 和茂

高砂教会副牧師

関 誠

京都グレースバイブルチャーチ牧師

中村 準一

野上キリスト福音教会寄居チャペル牧師

理事 会計監査

小島 武

ジョイフルグレース・チャーチ牧師

新村 眞一

小山聖泉キリスト教会牧師

橋本 守

大分カルバリー・チャーチ牧師

平岡 修治

橋本バプテスト教会牧師

森 敬子

富士見町教会信徒

横田 盛永

金武バプテスト教会牧師

理事

尾形 守

希望の教会 上野原クリスチャンセンター牧師

織田 宏彦

フルゴスベル四街道教会牧師

久保 有政

池袋キリスト教会牧師

當銘 由正

聖書福音聖川教会牧師